

京セラ株式会社 2020年3月期通期 決算カンファレンスコール**(2020年4月27日実施)**

代表取締役社長 谷本 秀夫 スピーチ

<1. (中表紙) 2020年3月期 決算概要>**<2. 2020年3月期 決算概要>**

当期の売上高は、前期に比べ1.5%減少の1兆5,991億円となりました。当期にはM&Aによる増収貢献があったものの、在庫調整の長期化や新型コロナウイルス感染症の拡大による景気減速の影響等により、過去最高であった前期にわずかに届きませんでした。

利益については、前期には構造改革に伴う費用約685億円を計上していましたが、当期はこの構造改革の効果もあったことから、増益となりました。営業利益は54億円増加の1,002億円、税引前利益は82億円増加の1,488億円、当期利益は45億円増加の1,077億円となりました。

設備投資額は前期に比べ減少しましたが、引き続き1,000億円を超える額となりました。減価償却費は、前期からの積極的な投資により、部品事業を中心に109億円増加しました。研究開発についても、みなとみらいリサーチセンターの設立等により93億円増加しました。

平均為替レートは、対米ドルは前期に比べ2円円高の109円、対ユーロは7円円高の121円となり、売上高は約360億円、税引前利益は約115億円、押し下げられました。

<3. 2020年3月期 事業セグメント別売上高>

「産業・自動車用部品」、「生活・環境」は増収となりましたが、「電子デバイス」、「ドキュメントソリューション」は減収となりました。

<4. 2020年3月期 事業セグメント別利益>

利益は、「産業・自動車用部品」、「電子デバイス」、「ドキュメントソリューション」が減益となりましたが、「半導体関連部品」、「生活・環境」は、前期の構造改革により大幅に改善しました。

<5. 2020年3月期 業績サマリー>

当期の業績サマリーとして、4点ご説明します。

1点目は、世界景気減速や新型コロナウイルス感染症の影響です。期初より米中貿易摩擦や

中国の景気減速により、自動車関連市場向け部品や半導体メモリ、プリンター・MFP等の需要が低迷し、期末には感染症の影響も加わりました。「産業・自動車用部品」では機械工具事業が、「電子デバイス」ではAVX Corporation（以下、AVX）がこの影響を大きく受けました。また、「ドキュメントソリューション」は為替の影響も加わり、減益となりました。なお、新型コロナウイルス感染症により、売上高に対しては約160億円、税引前利益に対しては約70億円のマイナス影響がありました。

2点目はM&Aによる事業拡大です。当期は主に、「産業・自動車用部品」及び「ドキュメントソリューション」でのM&Aにより、約600億円の売上貢献がありました。「産業・自動車用部品」においては、ファインセラミック部品及び機械工具事業の事業領域や製品ラインナップを拡大し、「ドキュメントソリューション」においては、ソリューション事業の強化を図ることが出来ました。

3点目は不採算事業の改善です。前期に構造改革を実施した2つの事業で採算改善を進めることが出来ました。「半導体関連部品」では、減価償却費等の固定費の低減及び戦略製品への注力により、有機材料事業を黒字化することができました。また、「生活・環境」セグメントでは、ソーラーエネルギー事業の材料費の低減及び受注増により、採算を改善することができています。

4点目は一時的な損益の減少です。前期は構造改革費用等で約685億円を計上していましたが、当期の一時的な費用は約80億円となりました。当期の主な一時的な損益は、スライドに記載の3つです。1つ目は60周年関連費用で約70億円、2つ目はAVXでの訴訟関連費用等で約100億円、3つ目は固定資産の売却益で約90億円です。

以上が当期の決算概要です。次に、2021年3月期の業績予想についてご説明します。

<6.（中表紙）2021年3月期 業績予想>

<7. 新型コロナウイルス感染症の影響について>

まず、新型コロナウイルス感染症の影響についてご説明します。

今期2021年3月期においては、第1四半期までは現在の不安定な状況が続くものの、第2四半期以降、今期末に向けて徐々に回復が進むものと仮定し、業績予想を算出しています。

世界各地で経済活動が停滞していますが、当社に関しては、特に自動車関連市場向け製品や、プリンター・MFPの需要減が予想されます。

また、当社グループの各拠点においても、こちらに記載の通り、感染防止のため、不急な生産の停止や在宅勤務等を実施しています。

<8. 2021年3月期 業績予想>

今期は、ただいまご説明しました新型コロナウイルス感染症の影響を主因に、減収減益を予想しています。また、設備投資、研究開発費については前期と同水準の計画としていますが、減価償却費については、2020年3月期までの高水準な投資を受け、増加する見通しです。

平均為替レートについては、対米ドルは4円円高の105円、対ユーロは6円円高の115円の予想です。この影響により、売上高は約360億円、税引前利益は約115億円、押し下げられる見通しです。

<9. 2021年3月期 事業セグメント別売上高予想>

事業セグメント別売上高については、「産業・自動車用部品」及び「ドキュメントソリューション」の減収を主因に、部品事業で5%、機器・システム事業で8%の減収を見込んでいます。

<10. 2021年3月期 事業セグメント別利益予想>

利益については、部品事業は、ほぼ横ばいを予想しています。

「産業・自動車用部品」の減収の影響はあるものの、今期は、前期にAVXにて計上した一時損失がなくなることを主因に、「電子デバイス」が増益となる見通しです。一方、機器・システム事業は、減収の影響により、約30%の減益を見込んでいます。

<11. 2021年3月期の取り組み>

厳しい事業環境を踏まえ当社は、グループを挙げて製造コストだけでなく、あらゆる諸経費を含む徹底したコスト削減を進めています。同時に、旺盛な需要がみられる製品については継続して投資等を行っています。5Gや半導体関連市場は、足元も活況であることから、半導体製造装置用部品やセラミックパッケージ、MLCC、水晶関連製品等は生産能力増強のための設備投資を行います。また、5G基地局用フィルターについても本格量産を開始する予定です。

中期的な事業強化に向けた投資も継続しています。グループシナジーの追求による事業拡大に向けて、3月にAVXの完全子会社化を完了するとともに、昭和オプトロニクスの子会社化を決定しました。

また、デジタル化を推進する専門組織を4月に新設しました。AIやIoT、データ解析を現場の業務に活用し、製造ラインの生産性倍増、オフィスワークの業務効率向上と併せて、ビジネスのデジタル化も加速させていきます。

<12. AVXとのシナジー追求>

上段に記載のとおり、3月にAVXの完全子会社化を完了しました。今期より、成長市場での

総合電子部品メーカーとしてのシェアアップに向けて、さらなるシナジーの追求を図ります。

AVX は、自動車や医療向けを中心に、海外市場において強いマーケティング力を有していることや、海外工場の運営、管理に強みがあります。一方、京セラは、通信関連市場では一定の競争力があり、製品の小型化等を可能にする高い材料技術や生産技術力を有しています。

これら両社の強みを活かし、中長期的に成長が見込まれる、5G、ADAS、IoT をはじめとする成長市場での事業拡大に努めます。

<13. 光学部品事業の強化>

次に、各種光学製品を手掛けています、昭和オプトロニクス株式会社の子会社化についてご説明します。同社の親会社である、日本電気株式会社 (NEC Corporation) 社の持ち分 約 94% を譲り受け、6 月より当社グループ会社として事業を開始します。

当社の光学部品事業は産業、車載、医療分野にて展開し、またグローバルな生産拠点、販売網を有しています。

一方、昭和オプトロニクス株式会社は、超高精度レンズ研磨技術、高耐力・低損失成膜、また優れた安定性のレーザー技術を保有し、宇宙や医療用レーザー等の当社が参入できていない高付加価値市場へ展開しています。

両社技術の融合によるシナジー効果と、当社の販売網及び生産拠点の活用により、光学製品のさらなる事業拡大を図ります。

<14. 株主還元>

最後に、株主還元についてご説明します。

2020 年 3 月期の配当金は、当社の配当方針に則り、20 円増配の 1 株当たり 160 円とさせて頂きます。なお、今期の年間配当金は、先ほどご説明しました業績予想ベースでは 120 円となります。

新型コロナウイルスの影響により、厳しい事業環境がしばらく続くものと予想していますが、この困難な状況を乗り越え、再度、成長路線に回帰できるよう、取り組んでまいります。

今後も当社に対してご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

以上

将来事象に関する注意事項

当資料には、将来の事象についての2020年3月期通期決算カンファレンスコール開催日（2020年4月27日開催）時点における当社グループの期待、見積り及び予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象についての記述には、既知及び未知のリスク、不確実な要因並びにその他の要因が内包されており、当社グループの将来における実際の財政状態及び活動状況が、当該将来の事象についての記述によって明示または黙示されているところと大きく異なる場合があります。